

令和5年6月通常会議

施設常任委員会報告事項

# 大津湖岸なぎさ公園の利活用に向けた 基盤整備等検討調査業務について

令和5年6月27日  
都市計画部 公園緑地課

# 令和4年度 大津湖岸なぎさ公園におけるにぎわい拠点形成に向けた 基盤整備等検討調査業務のまとめ(概要)

## 大津湖岸なぎさ公園の利用状況及び周辺施設の配置からみた課題整理のための調査を実施

### 滞留行動調査

調査結果	今後の検討ポイント
①-1：滞留行動種類 「会話」「釣り」「眺める」の行動がほぼすべてのエリアで発生しており、滞留行動の大半を占める。	行動の種類に偏りがあるため、多様な行動が生まれる仕掛けの検討が必要。
①-2：滞留行動種類 「琵琶湖ホテル前」「サンシャインビーチ」「市民プラザ前」等まとまった空間があるエリアで、ボール遊び・自転車・スケートボードが行われている。	既に「遊び・スポーツ」の活動が実施されているサンシャインビーチを活発なアクティビティの拠点として検討する。
②時間別滞留人数 19時以降に滞留が大きく減少するエリアが複数ある一方、 <b>大津港エリアでは花噴水の時間帯に滞留が増加</b> している	夜間利用の増加に向けて課題分析・改善や照明デザインなどで空間演出することが重要。
③滞留者年齢 大人①(22歳～40歳)、大人②(40歳～65歳)、③高齢者(65歳～)が多く滞留しており、 <b>中高生・大学生の滞留は少ない</b> 。	若年層の利用に繋がるコンテンツ誘致・空間改善の検討が必要。
④滞留姿勢 既にベンチが多く設置されているが、 <b>ベンチの使用率は低い</b> 。	ベンチなどの設置位置の再検討が必要。
⑤滞留位置・行動種類 湖岸沿の滞留は「釣り」による滞留がほとんどである。	最も気持ちよい空間が休憩等に利用されていないため、空間の改善等の検討が必要。

# 令和4年度 大津湖岸なぎさ公園におけるにぎわい拠点形成に向けた 基盤整備等検討調査業務のまとめ(概要)

## 大津湖岸なぎさ公園の利用状況及び周辺施設の配置からみた課題整理のための調査を実施

### 通行量調査（橋梁部分）

調査結果	今後の検討ポイント
<b>①-1：属性別通行量</b> 「歩行者」約55%、「自転車」約25%、「ランナー」約12%。その他、車椅子利用者、ベビーカー等も見られる。	利用者の安全性の確保及びバリアフリー対策を基本に園路のあり方について検討する。
<b>①-2：経路別通行量</b> 橋梁部において、「公園⇄公園」、「公園⇄道路」と公園内を通行する人は約50%弱である。	橋梁の整備検討へ
<b>②：手持ち照明携帯数</b> 日没時以降、ほとんどの時間において手持ち照明を携帯する人が存在する。	夜間の安全性の確保のための照明等について検討
<b>③：交錯者数</b> 交錯者を目的とした調査時間中（30分間）、平均1分30秒の間隔で交錯が起きいてる。	橋梁の整備検討へ

### 樹木調査

調査結果	今後の検討ポイント
<b>①-1：数量及び状態調査</b> 全体で1771本（※膳所・晴嵐の道一部は未調査） 「おまつり広場」6本、「打出の森」4本、「なぎさのプラムナード」14本、「サンシャインビーチ」1本、「膳所城跡公園」18本、「膳所・晴嵐の道」3本が樹木医診断により伐採推奨。	指定管理者に確認し対応するよう指示済。 左記以外にも、密集などによる生育不足が多数あることから、適切な樹木の配置についても検討する必要がある。

# 令和4年度 大津湖岸なぎさ公園におけるにぎわい拠点形成に向けた 基盤整備等検討調査業務のまとめ(概要)

## 大津湖岸なぎさ公園の利用状況及び周辺施設の配置からみた課題整理のための調査を実施

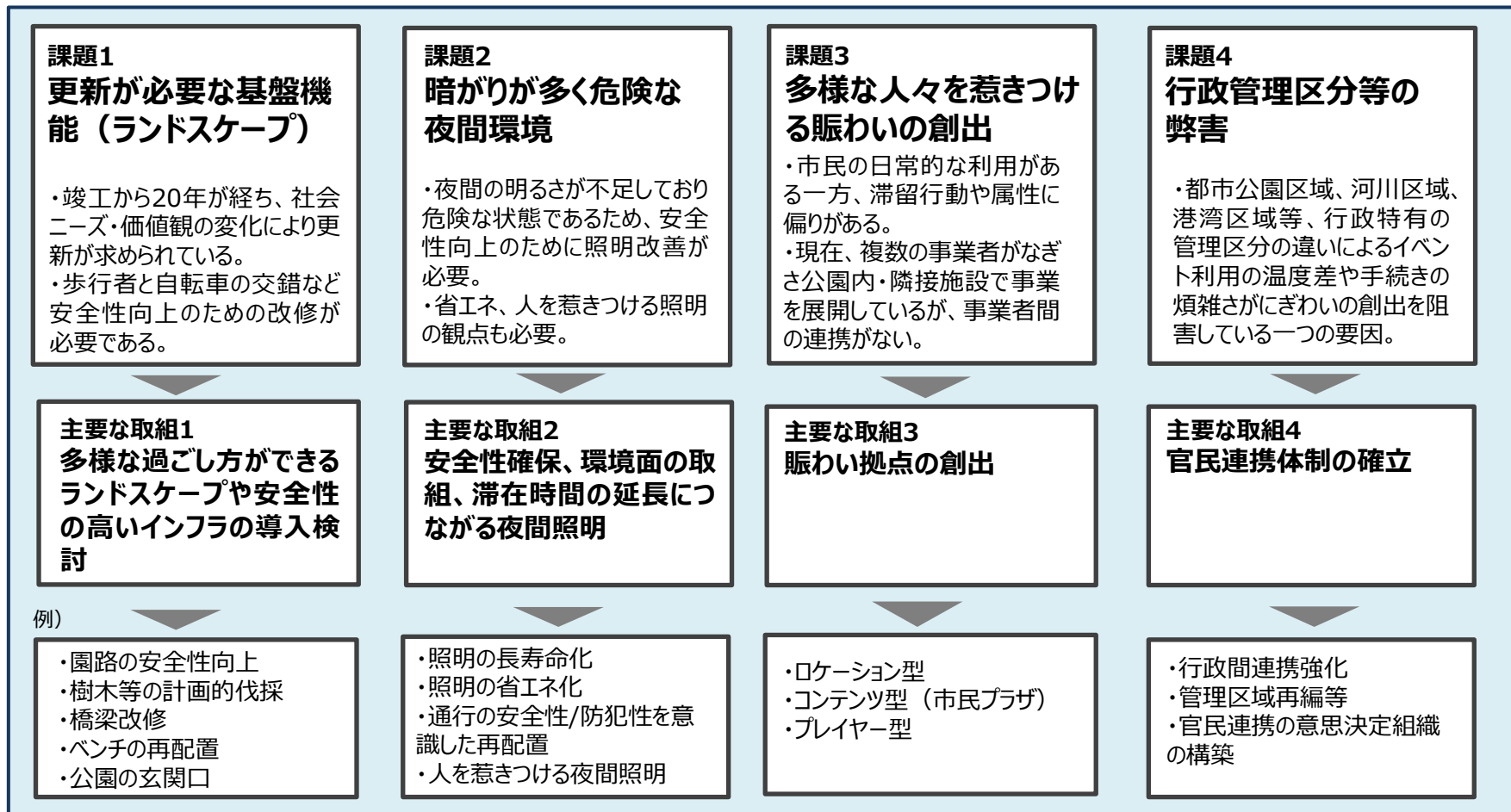
### ヒアリング調査（各種団体）

調査結果	今後の検討のポイント
<p>各種団体からの意見／要望等のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>公園内の舗装面の改善や夜間の暗がり改善など、空間上の危険性を改善する取組が求められている。</li><li>現状のルールが複雑なため、公園の活用へのハードルが高いという声が出ている。</li><li>なぎさ公園で実施されるイベントについて、地域住民への情報周知がされておらず、住民が不安感を持っているため、イベント実施前に事前共有することが求められている。</li><li>なぎさ公園内・沿道の事業者同士の情報共有体制づくり・連携した取り組みを望む声が事業者から出ている。</li><li>なぎさ公園は東西に長いため、ゾーン設定を行い、ゾーン毎の魅力を創出することが求められている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>行政管理地が複雑でイベント開催等の難易度が高いことへの対応が必要。</li><li>滋賀県(港湾、河川)、大津市の連携</li><li>住民への情報共有手段の検討。</li><li>商工会所属団体等は、それぞれがイベント予算を持っており、総額では多額となるが、大規模イベント誘致に向けて、一つにまとめていくことを検討。</li><li>特色を持たせたエリアづくりの検討。</li></ul>

# 令和4年度 大津湖岸なぎさ公園におけるにぎわい拠点形成に向けた 基盤整備等検討調査業務のまとめ(概要)



Lake Biwa



具体的取組みに関する時間軸

短期的

長期的

# 令和4年度 大津湖岸なぎさ公園におけるにぎわい拠点形成に向けた 基盤整備等検討調査業務のまとめ(概要)

## 課題1 更新が必要な基盤機能 (ランドスケープ)

- ・竣工から20年が経ち、社会ニーズ・価値観の変化により更新が求められている。
- ・歩行者と自転車の交錯など安全性向上のための改修が必要である。

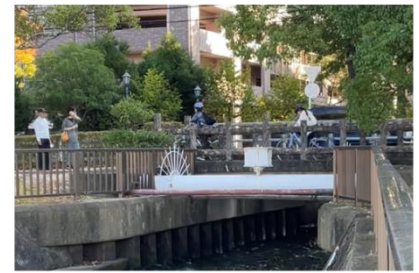
### 【調査結果のポイント】

- ・滞留行動調査などから、公園での過ごし方が限定的である。
- ・3つある歩道橋が狭小であり非常に危険である。
- ・なぎさ公園及び隣接市道はナショナルサイクルルートに指定されている箇所があり、園路等の安全性の確保が重要である。

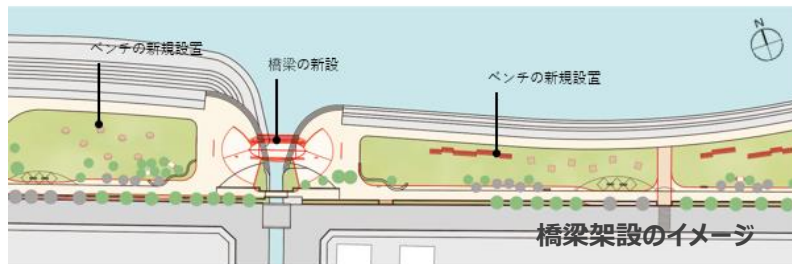
使われ方や利用箇所、利用時間帯等が限定的

中高生の滞留が少ない

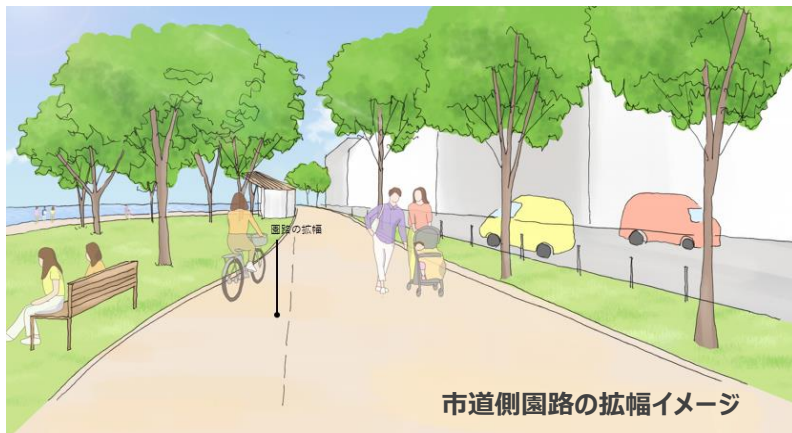
ベンチが多く設置されているが、ベンチの使用率は低い



「歩行者」と「自転車」の交錯



橋梁架設のイメージ



市道側園路の拡幅イメージ

### 【主な対策案】

- ① なぎさ公園のイメージ、愛される使われ方を大切に守りながら、空間の高質化整備やにぎわい創出を目的としたエリア整備を実施する。
- ② 琵琶湖や河川の水位を考慮すると、歩道橋は既存箇所での架替より、琵琶湖側へ位置を変えた架設が最も経済的かつ通行の安全性の確保につながる。
- ③ 市道隣接園路を拡幅し、歩行者や自転車等の通行に余裕を持たせることにより、当該園路の安全性の向上と併せて、琵琶湖側園路への自転車等の流入を緩和でき、公園全体の安全性の向上につながる。

### 【主な今後の取組】

- ・エリアごとのランドスケープの方向性の詳細検討
- ・橋梁の詳細設計
- ・園路の拡幅、樹木の適切な配置に関する概略設計



# 令和4年度 大津湖岸なぎさ公園におけるにぎわい拠点形成に向けた 基盤整備等検討調査業務のまとめ(概要)

## 課題2 暗がりが多く危険な夜間環境

- ・夜間の明るさが不足しており危険な状態であるため、安全性向上のために照明改善が必要。
- ・省エネ、人を惹きつける照明の観点も必要。



### 【調査結果のポイント】

- ・夜間の明るさが不足しており、通行の安全面、防犯面からも危険である。
- ・花噴水など夜間ライトアップを楽しめる場所には人がいる。
- ・膳所城跡公園の実証実験の結果、90%の人が好意的であった。

## 【主な今後の取組】

### 計画策定の基本となる方針

#### 長寿命化や省エネ化を目的とした 照明改善

#### ①安全安心の向上

照明改善

### 具体的な方策

- ア) 歩ける明るさのある遊歩道/園路/橋梁
- イ) 明るい路面のある広場
- ウ) 木々や工作物の鉛直面輝度を利用した安心感の創出
- エ) ベンチや工作物を視認できる照明効果
- オ) 全域で暗がりをつくらぬ工夫

#### 公園の過ごし方を増やす/滞在時間 を伸ばす

#### ②惹きつける夜間景観づくり

『日本屈指の湖岸夜景』をめざす

- カ) 緑（樹木/植栽）を魅せる
- キ) 水辺・水際を魅せる
- ク) 歴史や営みを見せる
- ケ) ランドマークを活かす
- コ) ベンチや工作物を活かすあかり
- サ) 低色温度で構成する上質なあかり
- シ) 琵琶湖湖畔ならではの夜景

#### 新たなアクティビティの誘発など

#### ③アクティビティを支える電気設備・照明

- ス) 活動に必要なインフラ/照明を装備

#### 観光的側面の強化

#### ④光のランドマークの創出

- セ) 新規/既存各エントランス・ファサードを魅せる
- ソ) 遠景に映える大型ランドマーク/演出の創出/更新

短期的

⑤環境に配慮  
持続可能な  
デザイン

タ) LED化

チ) 照明制御による省エネ

長期的

夜間照明配置イメージ

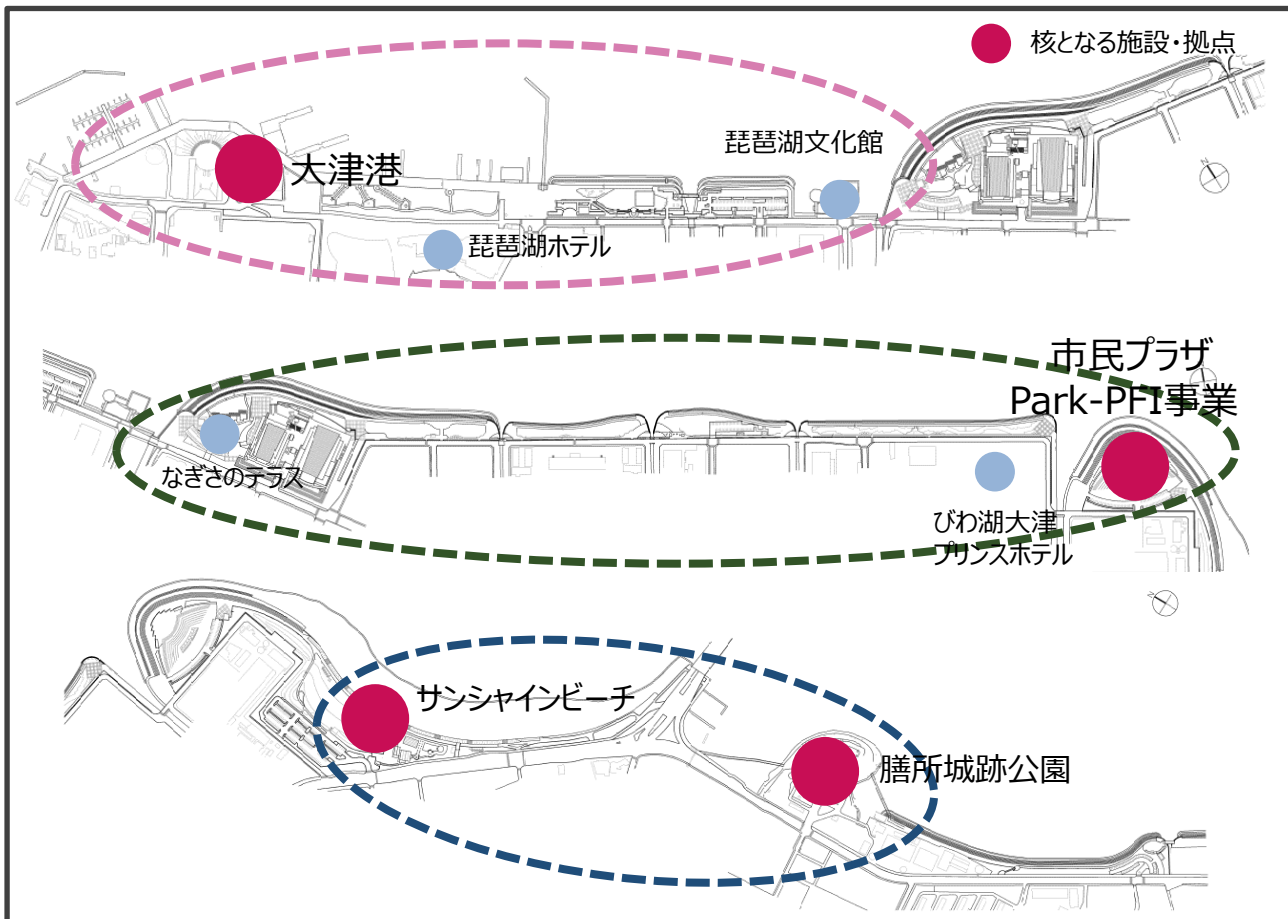
# 令和4年度 大津湖岸なぎさ公園におけるにぎわい拠点形成に向けた 基盤整備等検討調査業務のまとめ(概要)

## 課題3 多様な人々を惹きつける賑わいの創出

- ・市民の日常的な利用がある一方、滞留行動や属性に偏りがある。
- ・現在、複数の事業者がなぎさ公園内・隣接施設で事業を展開しているが、事業者間の連携がない。

## 【調査結果のポイント】

- ・核となる施設がある、または、計画している。
- ・場所による特色の違いがある
- ・行動属性の偏り、プレイヤーの連携の問題



## 【主な今後の取組】 ・素材と可能性を活かしたエリア づくりと検討（機能、場所、人）

大津港～おまつり広場・琵琶湖文化館

ロケーション型×企業主体

- ・ロケーションを活かした活用
- ・企業主体
- ・昼～夜の活用



打出の森～市民プラザ

プレイヤー型×企業主体

- ・企業ブランドを活かした活用
- ・企業主体
- ・昼の活用



サンシャインビーチ～膳所城跡公園

コンテンツ型×地元主体

- ・コンテンツ力を生かした活用
- ストリートスポーツ・水上アクティビティを想定
- ・地元主体
- ・昼～夜の活用





# 令和4年度 大津湖岸なぎさ公園におけるにぎわい拠点形成に向けた 基盤整備等検討調査業務のまとめ(概要)

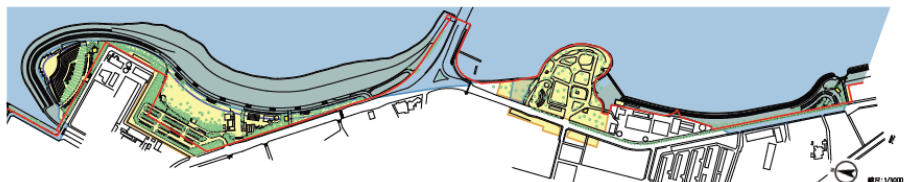
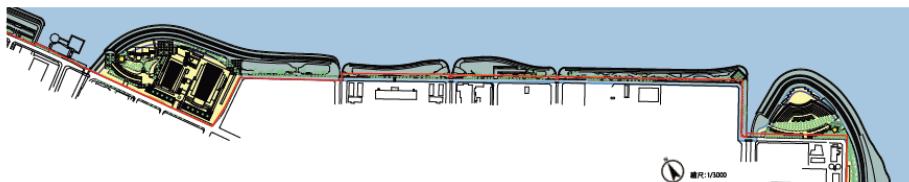
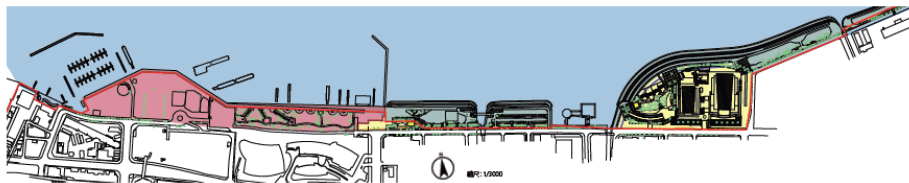
## 課題4 行政管理区分等の弊害

・都市公園区域、河川区域、港湾区域等、行政特有の管理区分の違いによるイベント利用の温度差や手続きの煩雑さがにぎわいの創出を阻害している一つの要因。

## 【調査結果のポイント】

- ・行政管理区域の煩雑さ
- ・イベント利用等のハードルの高さ
- ・民間事業者の連携度の低さ

## 管理区分の整理(公園区域・河川区域・港湾区域)



## 【凡例】

- 港湾区域
- 河川区域
- 公園区域
- 河川区域 兼 公園区域

## 【主な今後の取組】

- ・エリアマネジメントを効果的に進める組織体制の確立  
(官民連携強化)

## 参考事例：コアWEEK：あそべるとよたDAYS(豊田市)

### 1.概要

日常的なにぎわいが少なく、利活用が難しいエリアに対し、市民・企業・行政が一体となってアイデアを出し合い、やってみることを実践を行う社会実験である。

### 2.目的

- ①広場の魅力を伝え、愛着を持てる場所にする
- ②広場利活用の継続的な仕組みの創出
- ③日常の風景を自分たちで作り上げる

### 3.実施内容

開催期間 10/9(金)-11/7(土) コア期間：11/1(日)-11/3(火)  
プロジェクト全体のスケジュールは右記を参照  
場 所 豊田市駅周辺の9つのまちなか広場  
主 催 あそべるとよたプロジェクト推進協議会準備会  
開催概要  
①官民が管理する9つのまちなか広場を期間限定で統一窓口・ルールで運用 ※現在は社会実験期間を経て通年で実施  
②コア期間を設定し、規模の小さな活用取組は同日に開催することで、集客・にぎわいの相乗効果を生み出すことを目指した。



# 令和5年度 大津湖岸なぎさ公園(膳所周辺エリア)の利活用に向けた基盤整備等に係る検討調査業務

## 1. 調査の目的・必要性

大津湖岸なぎさ公園の膳所周辺地域について、地域資源が豊かなエリアであるにも関わらず、そのポテンシャルが十分に活かされていないと考えられることから、特色を活かした利活用方針をたてるための検討調査を行う。

## 2. 調査内容

- ① 膳所周辺エリアの利用状況及び周辺施設の配置からみた課題等の整理
- ② 関連する組織、団体などへのヒアリングの実施
- ③ 膳所周辺エリアに導入する機能、それを果たす施設の検討
- ④ 膳所周辺エリアの検討調査結果を反映した整備案の作成
- ⑤ なぎさ公園全体の再整備に係る方向性の検討

## 3. スケジュール

令和5年6月	業者決定
令和5年7月～1月	基盤調査、機能検討
令和6年3月	実績報告

## 4. 今後の方向性

令和4年度に実施したなぎさ公園の基盤整備調査と、今年度実施予定の調査結果を踏まえ、なぎさ公園全体の再整備に係る方向性を検討し、公園の利活用につなげていく。

